



モーツアルト室内管弦楽団 第121回定期演奏会

Mozart-Kammerorchester / 121. Regulärkonzert

2009年
〈没後200年記念ハイドンシリーズ〉第2回
〈モーツアルトとハイドン〉その1

2007年9月30日(日) 午後2時 ■ いすみホール

Sonntag, 30. September, 2007, 14:00Uhr. *Izumi Hall*, Osaka

■主催：モーツアルト室内管弦楽団

■協賛：いすみホール〔財団法人 住友生命社会福祉事業団〕

■マネジメント：大阪アーティスト協会 E-mail:artists@gol.com

〒530-0041 大阪市北区天神橋2-5-25-909 Tel 06-6135-0503



モーツアルト室内管弦楽団 第121回定期演奏会

Mozart-Kammerorchester/121. Regelmäärkonzert

2007年9月30日(日) 2:00pm. ●いすみホール

Sonntag, 30. September, 2007. 14:00Uhr. ● *Isumi Hall*, Osaka

2009年

〈没後200年記念ハイドン・シリーズ〉第2回

〈モーツアルトとハイドン〉その1

モーツアルト 交響曲 第39番 変ホ長調 K.543

W. A. Mozart Sinfonie Nr.39 Es-dur KV 543

- I. Adagio – Allegro
- II. Andante con moto
- III. Menuetto : Allegretto
- IV. Finale : Allegro

ハイドン

F. J. Haydn トランペット協奏曲 変ホ長調 Hob.VIIe-1

Konzert Es-dur für Trompete und Orchester Hob.VIIe-1

- I. Allegro
- II. Andante
- III. Finale : Allegro

* * *

モーツアルト

W. A. Mozart 歌劇《後宮からの誘拐》K.384 より

コンスタンツェのアリア《私は恋をしていました》

Constanzes Arie „Ach, ich liebte“

aus der Oper „Die Entführung aus dem Serail“ KV 384

ロッシーニ

G. Rossini 歌劇《セヴィリアの理髪師》より

ロジーナのアリア《今の歌声は》

Rosinas Arie „Una voce poco fa“ aus der Oper „Il barbiere di Siviglia“

ハイドン

F. J. Haydn 交響曲 第103番 変ホ長調 Hob.I-103 《太鼓連打》

Sinfonie Nr.103 Es-dur Hob.I-103 „Mit dem Paukenwirbel / Drum's roll“

- I. Adagio – Allegro con spirito
- II. Andante più tosto Allegretto
- III. Menuetto
- IV. Finale : Allegro con spirito

トランペット：大西由起

ソプラノ：成毛未来

Trompete : Yuki Ohnishi

Sopran : Miki Narimo

管弦楽：モーツアルト室内管弦楽団

Orchester : Mozart-Kammerorchester

指揮：門 良一

Dirigent : Ryoichi Kado



門 良一 ● 指揮

Ryoichi Kado, Dirigent

1939年大阪生まれ。フルートを曾根亮一氏に、指揮法を青山政雄氏に師事。62年京都大学理学部卒業、67年同大学院修了。70年同志とともにモーツアルト室内管弦楽団を創立、常任指揮者となり現在に至る。87年、モーツアルトのピアノ協奏曲全27曲、交響曲全74曲の連続演奏完結に対し、モーツアルト室内管弦楽団とともに第5回藤堂音楽賞を受賞。

現在、NHK大阪文化センター、同神戸文化センター「モーツアルトを聴く」講師。京都産業大学教授。



大西由起 ● トランペット

Yuki Ohnishi, Trompete

聖母学院小学校、中学校、高等学校を経て京都市立芸術大学及び大学院音楽研究科卒業。在学中、ロームミュージックファンデーション主催「第一回京都音楽学生フェスティバル'93」に於いてJ.S.Bach作曲「プランデンブルク協奏曲 第二番」のソロトランペットを務め好評を博す。トランペットを有馬純昭氏に、室内楽を呉 信一、岩崎 勇の各氏に師事。現在フリーのトランペット奏者として関西の主要オーケストラへエキストラ奏者として参加する他、ソロ、アンサンブルなどの分野で活動している。京都シティブラスアンサンブル、ジャパンアカデミートランペットアンサンブルの各トランペット奏者。山田音楽院、ユリ楽器、池本楽器、アルモミュージック各トランペット講師。



成毛未来 ● ソプラノ

Miki Narimo, Soprano

武庫川女子大学音楽学部声楽学科卒業。同大学声楽専攻科修了。武庫川女子大学音楽学部第38回定期演奏会にソプラノソリストとして出演。第45回武庫川新人演奏会、2005年度京都府新人演奏会、第24回フレッシュコンサート、第47回関西新人演奏会出演。兵庫県立芸術文化センターで行なわれたレナード・アサトン教授による、第2回合唱指揮者のための講習会のモデルソリストとして修了演奏会に出演。益子 務に師事。モーツアルト室内管弦楽団第1回新人歌手オーディション合格。



モーツアルト室内管弦楽団 Mozart - Kammerorchester

1970年に指揮者 門 良一によって設立され、37年間一貫して30数名のメンバー構成を維持するわが国では数少ない本格的室内オーケストラである。レパートリーはモーツアルト、ハイドンを中心とした古典派からバロック、前期ロマン派に及び、最近ではフランス近代の作品にも手を伸ばしている。モーツアルトに関しては交響曲と協奏曲の全曲を演奏した日本唯一のオーケストラであり、創立当初から新モーツアルト全集に準拠した楽譜を使用していることは注目に値する。'91年のモーツアルト没後200年に際しては2年にわたり記念シリーズを催し、なかでもモーツアルトの予約演奏会プログラムを完全に再現した日本初の企画は大いに話題を呼んだ。演奏スタイルは中規模編成の特色をフルに生かしたもので、的確なテンポ、明快なリズム、清澄なサウンドは定評のあるところである。関西一円で演奏活動を展開するなかで'90年からは大阪いずみホールを本拠として定期演奏会を、また隔年毎に東京定期演奏会を行い既に16回を数えている。海外では'88年にはドイツ民主共和国文化省の招聘による旧東独国内への演奏旅行を成功させている。内外の著名アーティストと数多く協演しており、なかでもマリア・ジョアオ・ビリス ('85, '87年)、シブリアン・カツアリス ('93, '94年)、ベーター・ダム ('83, '86, '88, '98, '00年)、ウィーンフィル木管アンサンブル ('86年)、ライナー・キュッヒル ('90年)らとの名協演はいまも語り草となっている。'91年に姉妹団体、モーツアルト記念合唱団を誕生させ宗教曲などで活発に協演するほか、'93年には堺シティオペラとの協力による〈モーツアルト・オペラシリーズ〉を開始し、いずれも好評をもって迎えられている。'06年1月にはモーツアルト生誕250年記念特別企画としてオペラ《イドメネオ》の世界初オリジナル・ノーカット版演奏会形式上演を挙行し絶賛を浴びた。「素晴らしい成果」(毎日新聞)、「この楽団は注目」(朝日新聞)。

ハイドンとモーツアルト

ハイドンとモーツアルトの関係はどうるわしい関係は音楽史のなかで他に見あたらないのではなかろうか。『普通の常識でいうと、ハイドンとモーツアルトのような二人の芸術家は、明らかにおたがいに憎み合い邪魔し合うはずである。しかしながら自然は、このようにすぐれた二人の人間を作り上げるのに必要であった調和的な材料を、いわば浪費するといつてもいいくらいに、たっぷりと使うことのほうを選んだのであった。だからこの二人はたがいに高く評価し合い、一つの紐で正真正銘の友情に結ばれていた。』(ディース「ハイドン=伝記的報告」)。二人は親子ほど歳が離れ(ハイドンが24歳年長)、それぞれの性格も作品も正反対といっていいほど違っているだけに、この「友情」はまさに奇蹟である。

モーツアルトは生涯、他の音楽家の能力について容赦なく批判する人であった(皇帝の御前でピアノの腕比べをした相手のクレメンティに対する手厳しい批評などがその典型である)。だが、ハイドンに対してだけは違った。才気は自分のほうが上回っていると自負していたろうが、ハイドンの創意工夫に満ちたオリジナリティーの強い音楽には完全に脱帽したのである。だから、自分のどちらかといえば不得意な分野においてはハイドンから学んだということを進んで明らかにした。「ハイドン・セット」と呼ばれる弦楽四重奏曲に付けた有名なハイドンへの献呈の辞がそれである。

交響曲というのも、作品数こそ多いがモーツアルトのメジャーな分野ではなかった。後期の交響曲においてハイドンに学んだ形跡は明らかである。なかでも、第36番 ハ長調《リンツ》、本日演奏する第39番 変ホ長調の2曲はハイドン色の極めて強い交響曲である。その特徴は、第1楽章に序奏があること、主題の性格や構成がシンプルであること、展開部が短めであっさりしていること、第3楽章としてメヌエットが置かれていること、そのメヌエットのトリオ(中間部)に管楽器のソロがあること、などである。そのため、全体として明るく健康的になっている。

一方のハイドンは、すでに功成り名遂げた存在であったにもかかわらず、まことに謙虚にも後輩の天才ぶりを極めて率直に認めている。特にオペラの分野においてそうであった。『偉大なモーツアルトに比肩するような者は誰もいない…。モーツアルトの偉大な、模倣しがたき仕事…』(ハイドンの手紙)。

ハイドンは大器晚成型でこつこつとわが道を行くタイプであったから、モーツアルトがハイドンから受けたようにモーツアルトから影響を受けなかったように見える。だが、本日演奏する交響曲 第103番《太鼓連打》(この作品はモーツアルトの死後書かれている)には大変微妙だがモーツアルトの第39番の影響が窺われると思う。従来のハイドンの作品に比べてオーケストレーション(楽器用法)が豊かで、中声部が充実している。モーツアルト風にヴィオラやクラリネットがうまく使われている。ハイドンが晩年に書いた大作オラトリオ《天地創造》においてはその傾向がさらに進み、音楽的にも《コジ・ファン・トゥッテ》などのオペラと通ずるものが多く感じられるのである。

モーツアルト：交響曲 第39番 変ホ長調

1788年の夏、2ヶ月ほどの短期間に作られたことで知られる〈3大交響曲〉の第1曲。この交響曲の最大の特徴は、管楽器にオーボエを欠いていること、その代わりクラリネットを中心になっていることであろう。18世紀においてこれは革命的なことであり、こんなことのできる作曲家はモーツアルトを描いて他にはいなかった。特に、第3楽章メヌエットのトリオでのクラリネットの使い方はみごとの一語に尽きる。〈3大交響曲〉はいずれもハイドンが1786年に作曲した6曲の〈パリ交響曲〉(第82~87番)の影響を受けて書かれているが、その中でも最もハイドン的な作品である。

ハイドン：トランペット協奏曲 変ホ長調

1796年、ハイドン64歳の作品。ウィーンの宮廷トランペット奏者、ヴァイデインガーのために作曲された。ヴァイデインガーはそれまでの自然倍音しか出せない楽器に替わるべき、すべての半音階を演奏できる有鍵トランペットを考案し、そのための協奏曲をハイドンに依頼したのである。ハイドンの人柄がにじみ出た、晩年の円熟の名曲である。

モーツアルト：《後宮からの誘拐》よりコンスタンツェのアリア

《後宮からの誘拐》は、1781年ウィーンに移住したばかりのモーツアルトが、当時皇帝ヨーゼフ2世のお声がかりで始まったばかりの(ドイツ・オペラ運動)に沿って作曲し、ウィーンで最初の成功を収めることになるジングシュピール(ドイツ語の歌芝居)である。このアリアは第1幕で後宮に囚われたヒロイン、コンスタンツェの歌うもの。

ロッシーニ：《セヴィリアの理髪師》よりロジーナのアリア

ロッシーニの代表作のひとつであるこのオペラの筋書きは、モーツアルトの《フィガロの結婚》の前の話であることはよく知られている。後に伯爵夫人となるロジーナが、毎夜通ってくるリンドーロなる若い男（実は伯爵）の歌に応えるアリア。因みに、モーツアルトの死の年の翌年である1792年に生まれたロッシーニは「モーツアルトの生まれ変わり」を自称したとか。

ハイドン：交響曲 第103番 変ホ長調《太鼓連打》

1795年、ハイドンの第2回ロンドン旅行で初演された。ハイドンの最後から2番目の交響曲。この曲のあだ名は、第1楽章の開始がティンパニのトレモロだけで始まることによる。ところで、その開始部には強弱の指定がないのだが、従来は $p < f > p$ のように奏されるのが習慣となっていた。しかし考へても見よ、あの《びっくり交響曲》の作曲家が交響曲の開始部をティンパニだけにまかすにあたって、こんな中途半端でお上品なやり方をするわけがないではないか。それに、バロックや古典派の音楽では開始部はフォルテなのが当たり前なのでわざわざ f とは書かないことが多い。例外的にピアノで始めるときだけ p と書いたのである。ハイドンの総譜には強弱記号は何も書かれてないので、フォルテで奏されるべきであろう。

さて、ハイドンはクラリネットという楽器になじみがなかった。交響曲では上述の第2回ロンドン旅行用に作曲された6曲のうち、第99番、第100番《軍隊》、第101番《時計》、第103番《太鼓連打》、第104番《ロンドン》の5曲においてはじめてクラリネットをオーケストラに加えたのである。その使い方たるや、おっかなびっくりもいいところで、《軍隊》では第2楽章だけ、《時計》、《ロンドン》では省いても一向にさしつかえなし、なのである（実際、われわれは《時計》、《ロンドン》の演奏をクラリネットなしで行ったことがあるが、全く問題はなかった）。だが、この《太鼓連打》では（第2楽章では欠場するものの）クラリネットのソロがあり、全体に有効に使われている。特に、第3楽章メヌエットのトリオではクラリネット2本の美しいソロがある。思うにこれは、第1回ロンドン旅行（1790～92年）のさなかにモーツアルトの訃報を受けたハイドンが、その死を悼んで書いたモーツアルトへのオマージュにちがいない。ハイドンは39番のメヌエットのトリオを思い浮かべながら、使い慣れないクラリネットにモーツアルトへの思いを託したのである。

モーツアルト室内管弦楽団／出演メンバー

コンサートマスター●釋 伸司

第1ヴァイオリン	釋 伸司 青野 久美子 中川 衛子 大西 秀朋 稻庭 真理子 村井 紗子 森住 憲一 本多 智子 清水 めぐみ	川島 多美子 原田 潤一 幣 晴代 串田 えがく ヴィオラ 佐藤利祐子 上野 亮子 森永 愛子 チエロ	三木 恵理 柳瀬 史佳 岡尾 有紀 コントラバス 南出 信一 赤松 里美 フルート 西出 昌弘 オーボエ 日野 俊介	高橋 博 門 小夜子 佐伯 利之子 吉田 文子 佐藤 明美子 室 倫美子 森下 智穂 福田 裕司 小谷 康夫
第2ヴァイオリン				

新人歌手オーディション

モーツアルト室内管弦楽団では実力のある新人歌手に出演の機会を与えるため、随時オーディションを行っております。応募希望者は、略歴、写真、演奏テープを下記宛お送りください。なお、テープの演奏曲は2曲とし、うち1曲はモーツアルトのアリアとします。

〒530-0041 大阪市北区天神橋2-5-25-909 大阪アーティスト協会会員 摂取モーツアルト室内管弦楽団新人歌手オーディション実行委員会

モーツアルト室内管弦楽団 第122回定期演奏会

2009年

〈没後200年ハイドン・シリーズ〉第3回

2007年12月2日(日)午後2時●いすみホール

ハイドン最後の超大作

オラトリオ《四季》(日本語字幕付)

ソプラノ：木村能里子 テノール：西垣俊朗

バリトン：井原秀人

合唱：モーツアルト記念合唱団(合唱指揮：益子 務)

指揮：門 良一

第123回定期演奏会

〈懐かしのクラシック—日本の洋楽の原点を辿る〉Ⅱ

2008年1月6日(日)午後3時●いすみホール

〈浅草オペラ名曲集〉

—原語オリジナル版と当時の訳詩による浅草版との比較演奏—

《チゴイネルワイゼン》、《ウィリアム・テル序曲》、

《ハンガリー狂詩曲 第2番》など、懐かしの名曲全20曲！

ナビゲーター：桂 小米朝 ヴァイオリン：鷺山かおり

ソプラノ：津山和代 テノール：清水光彦 バリトン：藤村匡人

指揮：門 良一

会長 岡本道雄(京都大学名誉教授)

理事 大西正文(大阪ガス株式会社相談役)

森井清二(関西電力株式会社顧問)

谷口安平(京都大学名誉教授)

吉野泰生(住友生命保険相互会社会長)

(50音順)

顧問 斎藤房江(大阪府知事)

伊藤郁太郎(大阪市立東洋陶磁美術館館長)

關淳一(大阪市長)

梅原猛(国際日本文化研究センター顧問)

法人会員(50音順)

荒川化学工業
上冷熱
大阪ガス
関電力
西オク
阪野商店
サントリー住友金属工業
住友精密工業
住友生命保険
住友倉庫
ダイキン工業
大同ケミカルエンジニアリング
高松建設日本通運京都旅行支店
浜田プレス工藝
林六
福山製紙
松下電器産業
丸紅
丸山サービス三井住友カード
ワコール
*
日本セルフ

個人会員(入会順、敬称略)

松井繁一	阿部由美子	馬場明俊	村原田島河	猛子	晃一
深田晴世	中川幸子	阪慶信	原田田平	一子	子守子
河野幹雄	石上豊子	和一郎	西野平	藏雄	守朗子
河野奈津子	山村孝夫	子策	佐野松	茂邦	昭信
福岡隆子	松本幸道	道樹	井田得	治功	三子
梅原一哲	市崎泰	子子	藤田南	次郎	弘浩
石本三千也	崎英忠	済夫	恒昌	宣外	秀子
田村眞也	林桂彦	夫子	昌津	次	正志
竹村治	碓井昭	男子	惠和	武	都清
岸田克己	彌彦	明子	浦田勝	治郎	都理
梅屋良也	碓井み重	正久	田藤立	大人	正二
國友正和	岸田朝	多加	野谷	八生	
梅田文一	田多	博	佐野	久人	
稻垣千代子	能内	植	佐今玉	子	
浮田俊太郎	森達	植	井宏	勇	
荻野伊都子	宮茂	高川	安隆	薰	
桑山弘	野尚	川坂	竹田	彦	
三谷郁子	定秀	本井	中豊	彦	
田中喬子	嘉光	佐武	奥平	彦	
天野康英	澄子	和冠	大飛	彦	
三浦信一郎	吉允	有佐	桐	子	
水島敬夫	昭次	吉孝	森	司	
渡辺優子	正	成敦	賀野	正	
平川美津子	高	佐助	野本	隆	
安藤邦洋	原啓	助	柳部	郎	
橋本太三雄	山初	代	中部	彦	

会費・個人会員につきましては年会費1口2万円です。

・法人会員につきましては年会費1口10万円です。

会員の特典・年間6回の自主公演にご招待致します。(1口に付き個人各1枚、法人各5枚)

・ご同伴者は10%割引となります。

・関連演奏会のご案内又はご優待を致します。

・定期演奏会プログラムにご芳名を記載させていただきます。

・会報「ディヴェルティメント」をお送り致します。

(有効期間は入会時より1年間です。)
(随时ご入会いただけます。)